

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成30年7月19日(2018.7.19)

【公開番号】特開2018-52985(P2018-52985A)

【公開日】平成30年4月5日(2018.4.5)

【年通号数】公開・登録公報2018-013

【出願番号】特願2018-1740(P2018-1740)

【国際特許分類】

C 07 D 491/052 (2006.01)

A 61 K 31/4188 (2006.01)

A 61 P 31/14 (2006.01)

C 07 B 51/00 (2006.01)

【F I】

C 07 D 491/052 C S P

A 61 K 31/4188

A 61 P 31/14

C 07 B 51/00 F

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年6月8日(2018.6.8)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

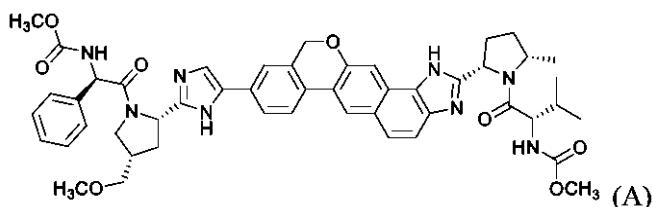
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式(A)の化合物

【化301】



の塩を調製する方法であつて、

式(A)の化合物を、リン酸、塩酸、臭化水素酸、およびL-酒石酸から選択される酸と、式(A)の化合物の塩を得るのに十分な反応条件下で、接触させることを含む、方法。

【請求項2】

前記反応条件が、メタノール、エタノール、水、およびイソプロパノールから選択される溶媒中で前記反応を行うことを含む、請求項1に記載の方法。

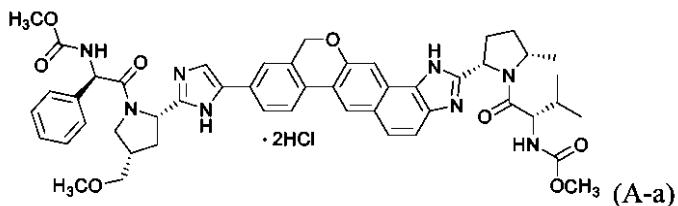
【請求項3】

前記反応条件が、5 ~ 60 の範囲の温度で前記接触させるステップを行うことを含む、請求項1に記載の方法。

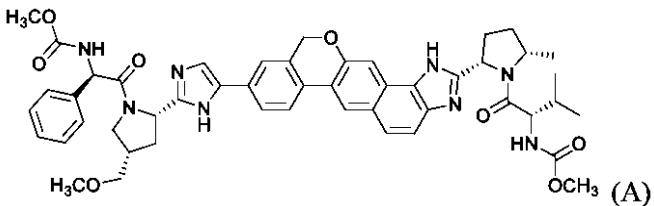
【請求項4】

式(A-a)の化合物

【化302】

を調製する方法であって、式(A)の化合物

【化303】

を、塩酸と、式(A-a)の化合物を得るのに十分な反応条件下で、接触させることを含む、方法。

【請求項5】

前記反応条件が、エタノール中で前記反応を行うことを含む、請求項4に記載の方法。

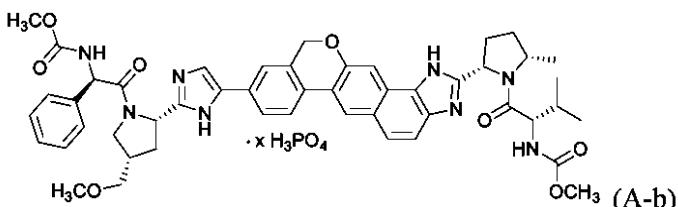
【請求項6】

前記反応条件が、45の温度で前記接触させるステップを行うことを含む、請求項4に記載の方法。

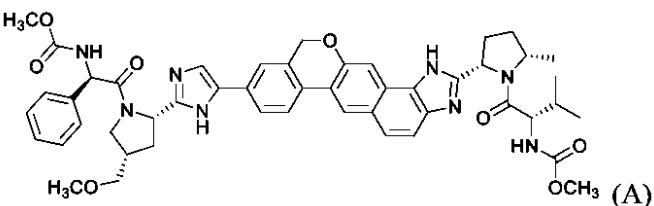
【請求項7】

式(A-b)の化合物

【化304】

を調製する方法であって、式(A)の化合物

【化305】

を、リン酸と、式(A-b)の化合物を得るのに十分な反応条件下で、接触させることを含む、方法。

【請求項8】

前記反応条件が、エタノール中で前記反応を行うことを含む、請求項7に記載の方法。

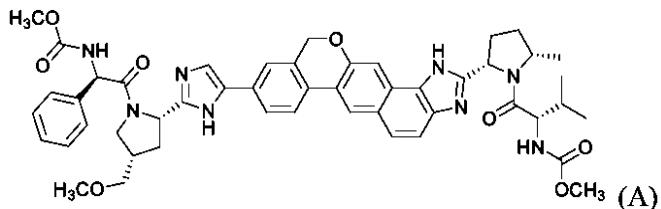
【請求項9】

前記反応条件が、5～60の範囲の温度で前記接触させるステップを行うことを含む、請求項7に記載の方法。

【請求項10】

式(A)の化合物

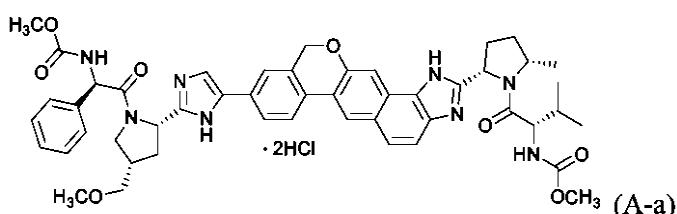
【化306】



を調製する方法であって、

式(A-a)の化合物

【化307】



を、式(A)の化合物を得るのに十分な反応条件下で、接触させることを含む、方法。

【請求項11】

前記反応条件が、10%重炭酸カリウムを含む、請求項10に記載の方法。

【請求項12】

前記反応条件が、酢酸エチル中で前記反応を行うことを含む、請求項10に記載の方法

。

【請求項13】

前記反応条件が、

(a) 分離しそして水で有機相を洗浄するステップと、

(b) 該有機相を濃縮し、そして得られた濃縮物を水に添加するステップと、

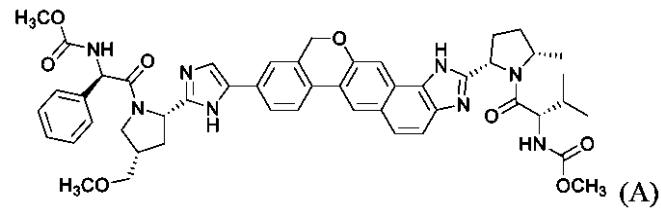
(c) 濾過によって、式(A)の化合物を単離するステップと

をさらに含む、請求項12に記載の方法。

【請求項14】

式(A)の化合物

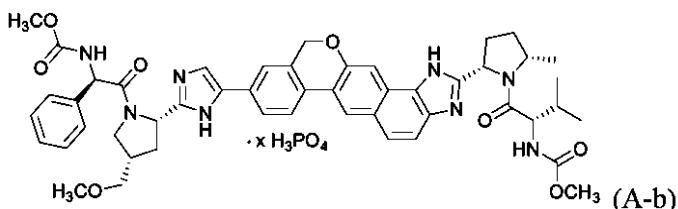
【化308】



を調製する方法であって、

式(A-b)の化合物

【化309】



を、塩基と、式(A)の化合物を得るのに十分な反応条件下で、接触させることを含む、方法。

【請求項15】

前記反応条件が、水酸化アンモニウム、二塩基性リン酸カリウム、または重炭酸カリウムを含む、請求項14に記載の方法。

【請求項16】

前記反応条件が、エタノール、水、または酢酸エチル中で前記反応を行うことを含む、請求項14に記載の方法。

【請求項17】

前記反応条件が、15～25の範囲の温度で前記接触させるステップを行うことを含む、請求項14に記載の方法。

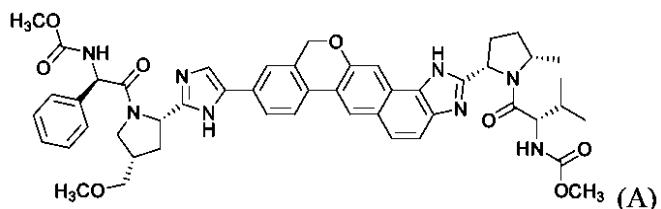
【請求項18】

前記反応条件が、
(a) 分離しそして水で有機相を洗浄するステップと、
(b) 該有機相を濃縮し、残留物をエタノール中に取り入れ、そして得られた混合物を水に添加するステップと、
(c) 濾過によって、式(A)の化合物を単離するステップと
をさらに含む、請求項14に記載の方法。

【請求項19】

請求項1～3または10～18のいずれか一項に記載の方法によって得られる式(A)の化合物。

【化310】



【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0490

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0490】

反応容器に、化合物(A-b)(3.0g)、続いてEtOAc(15mL)および10%KHC₃O₃(15mL)を投入し、かき混ぜを開始した。約5時間後、相を分離し、有機相を水(15mL)で洗浄し、次にロータリーエバボレーションによって真空下で濃縮した。残留物をEtOH(4.5mL)中に取り入れ、次に水(30mL)に添加してスラリーを生成した。約15分後、固体を濾過によって単離し、水(3×3mL)で洗い込んだ。固体を、約50～60の真空オーブンで約15時間乾燥させて、化合物(A)を生成した。